

令和元年 水泳部 OBOG 会主催講演会

## 講演会 「オリンピックへの道」～未来を担う皆さんに伝えたいこと～

### 報告書

- 1 日時 令和元年8月4日(日) 13:00～15:00
- 2 場所 八尾高校ゆうかりホール
- 3 主催 八尾高校水泳部 OBOG 会
- 4 実績

(1) 講師 田口 信教 氏 (医療創成大学 副学長)  
ミュンヘンオリンピック (1972 年) 男子 100m 平泳ぎ金メダル。  
引退後は国立鹿屋体育大学で教鞭を執られ、アテネオリンピック (2004 年) 女子 800m 自由形金メダルの柴田 亜衣選手を育成。

(2) 参加者	現役水泳部員 (3 年生含む)	21 名
	水泳部 OBOG 会	37 名
	体育部 OBOG 会関係者	8 名
	学校教職員	4 名
	関係者	50 名
	計	120 名



大阪府立八尾高等学校  
水泳部 OB・OG 会 主催

ミュンヘンオリンピック  
金メダリスト

**田口信教 氏 講演会**  
**オリンピックへの道**  
～未来を担う皆さまへ伝えたいこと～

日時 2019年8月4日(日)  
13:00～14:30 (開場 12:20)

会場 大阪府立八尾高等学校 ゆうかりホール

入場料 無料 (事前申し込み必要: 先着順)

問合せ先・申し込み先  
八尾高等学校 水泳部OBOG会 事務局  
yaoswimming@yahoo.co.jp

★メール本文に下記をご記載下さい。  
【出席希望者 卒業生の力】  
①お名前(姓も併記)  
②八尾高校の卒業年度  
③所属クラブ  
④連絡先(メールアドレスor電話番号)  
【学校関係者 その他の力】  
①お名前  
②所属との関係  
(教員・PTA・学校運営協議会その他)  
③連絡先(メールアドレスor電話番号)

田口信教  
(たぐちのぶたか)  
1951年6月19日  
愛媛生まれ 広島育ち

ミュンヘンオリンピック  
(1972年)  
男子100m平泳ぎ 金メダル  
男子200m平泳ぎ 銅メダル

高校在学中にミュンヘンオリンピック(1968年)に出場。  
2回目の出場となったミュンヘンオリンピックで、  
当時の世界記録となる1分49秒で金メダルを獲得。  
現役時代は体育教師を目指し、鹿屋体育大学で  
教鞭を執る。アテネオリンピック(2004年)の  
女子800m自由形の金メダリスト柴田選手は教え子である。  
1977年、鹿屋体育大学入部。2019年現在、  
広島県立大学教員、医療創成大学 客員教授を務める

告知ポスター

### (3) 水泳部 OBOG 会 西山会長あいさつ

- 私たち水泳部 OBOG 会がこの講演を企画することになったきっかけは、高等学校において野球やラグビーなどのスポーツクラブの数が少なくなっていること、さらに現役の生徒たちもクラブ活動への関心が低くなっていると聞いたことです。
- 全体としてスポーツが低調になる中で「さらにもっと現役部員たちを元気づけることはできないか? どうすればいいか?」という議論が起こりました。例えば「高校の時に経験した水泳って、苦しかったけどやっぱりやっていて良かったね」や「水泳をやっている自分の強さや弱さがわかった」「もっと速く泳ぐにはどうしたらいいか」などスポーツを追求する素晴らしさについて、現役部員にうまく助言できれば良いのではないかと、私たちの経験だけではうまく伝えることができないけれど、オリンピックを経験して、メダルを取った方ならうまく伝えてくれるのではないかと考えたのです。
- 田口氏はミュンヘンの前回大会であるメキシコオリンピックの準決勝で世界新記録を出しながら泳法違反と判定され、失格となりました。大きな挫折であったと思いますが、それを乗り越えて次のミュンヘンで金メダルを獲得されました。相当なご苦労があったと思いますが、その厳しいエピソードを踏まえたご講演は、現役部員だけでなく、本日お集まりの八尾高校 OBOG の方々、その他の多くの方々にとっても「生きる勇気」をいただけたと思います。



西山会長あいさつ

#### (4) 講演要旨

現役部員はミュンヘンオリンピック以後の生まれであるため、講演前に当時のニュース映像を流し、当時の状況や雰囲気伝えた。

ため池で泳ぎ始めたこと、厳しい監督の下で指導を受けたことなどオリンピック選手になるまでの苦労話や、出場時の裏話など、競技力を向上させる厳しい練習や努力、工夫について、経験を元にユーモアを交えて楽しくわかりやすくお話しいただいた。

- オリンピックに行きたいと思う人はたくさんいるが、本気でいこうと思っている人はほとんどいない。「学ぶ」は真似ることから始まる。スポーツの世界では「ものまね」は重要であり、世界一のスイマーの泳法をカンニングすれば良い。一流スイマーの水中映像などを研究し、泳法を真似るのが上達の近道。世界一のスイマーと自分を数値で比較し、練習では、知識と情報をフル活用して改善を繰り返すこと。
- 人間は物事を忘れる存在なので、一度決意したことも時がたてば褪せてしまう。そのため、記憶を再生するキーワードを持つことが大切である。目標や留意点などを壁に貼り、いつも見えるようにすることにより、目標に向かって継続できる。自分がどこにいるかわからないと、どこに行くのかはわからないし、どこにも行けない。人は刺激を受けると強くなる遺伝子を持っている。脳も筋肉も常に刺激を与えることが大切。
- スポーツでは、うまくいかないことも多く。選手は常に不安になるもの。うまくいかないと不安になり悩んでしまうことも多い。
- スポーツとは「運が動く」大運動会であり、スポーツに運はつきもの。運を味方にするためには、神様の立場で考え、善い行いを積み重ねること（「一日十善」）。
- 自分が今の位置にいるのは、恩師、母校、先生方、先輩・後輩、支援してくれる人がいてこそ。自分を支えてくれる人たちへの感謝を忘れないこと。



田口氏のご講演



ゆうかりホールは満席

#### (5) 会場からの質問

- なぜ平泳ぎを専門に選択したのですか？（現役水泳部員）  
→ バタフライでも当時の日本記録とほぼ同じタイムで泳ぐことができたが、自身の身体能力を冷静に分析して平泳ぎにした。誰しも身体的な特徴がある。様々な角度からの測定によりその身体的特徴をきちんと把握して、自身の身体能力に見合う泳法を考え確立すること（田口氏）。
- スランプ時の工夫は？（現役水泳部員）  
→ 自分にはスランプの経験はない。常に新しい工夫にチャレンジしていくべきであり、スランプだと思うのは新しいことへのチャレンジをしていないこと（田口氏）。

- 昔のオリンピックと今のオリンピックの違いは？（一般参加高校生）  
 → プロ化したことが一番大きな違い。プロ化に伴い、選手に賞金が与えられるようになり、より良い泳法の開発などのモチベーションの向上につながっている。一方、泳法の水映像は、本人やコーチの研究と努力の成果であるにも関わらず、本人たちの知的財産として扱われていないのは問題である。



現役部員からの質問

(6) その他プログラム

① 金メダル紹介

田口氏の「1972年ミュンヘンオリンピック 100m 平泳ぎ 金メダル」の実物を展示し、かつ参加者が触れることのできる時間を持っていただいた。現役部員にとって本物の金メダルに触れることができた貴重な体験となった。



金メダル



初めて見る金メダルに興味津々な現役部員

② 色紙抽選と贈呈・記念撮影

田口氏のサイン色紙を6名（現役部員3名、一般参加者3名）に抽選で贈呈した。また、全体写真撮影および個々に田口氏とのツーショット写真を撮る時間を設けた。



色紙



当選した現役部員が田口氏と固い握手

## 5 参加者の感想

### (1) 現役部員

- 講演を聴いて、まず第一に思ったのが、スランプがないというすごさです。僕にもあって、絶対誰にも訪れるはずのものが存在しないと言うことは、田口さんのたくさんの工夫や向上心がとてつもなくあったからなのかと想像しました。さらに、田口さんのポジティブさにも驚きました。ネガティブに考えたくなる状況がたくさんあったにもかかわらず、そういう発想に至らない、その心の強さをとても尊敬しました。



現役部員との記念撮影

今回知ることができた工夫や向上心、ポジティブな心構えなどを、自分たちはしっかり生かして頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

(松尾拓真くん 2年生 主将)

- この度は八尾高校で講演をしていただき、ありがとうございました。田口さんには多くのことを教えていただきましたが、その中でも最も記憶に残ったことは、スポーツにおいてカンニングは許される行為と仰ったことです。このことは、よく考えたら当たり前前のことかも知れませんが、僕たちにとってはすごく新鮮で衝撃的でした。一流選手の泳ぎの技術や水泳部の仲間ですぐ人の技術を盗み取って自分の水泳にも活かせるように頑張ります。

田口さんには貴重な時間を割いていただきありがとうございました。また、OBOGの先輩方には貴重な機会を準備していただきありがとうございました。

(上西隼人くん 2年生)

### (2) 水泳部顧問の橋本先生

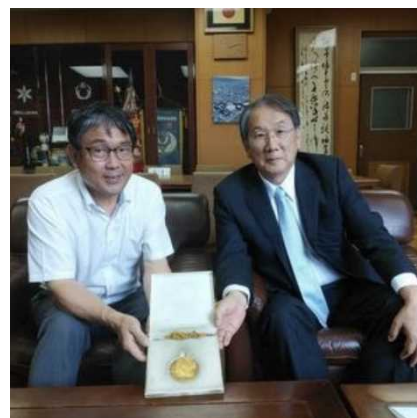
- 現役部員たちにとって、貴重な経験になったと感じています。特に、質疑応答での東山くん(3年生)への田口さんのお答え「私はスランプの経験がない。人がしないこと、新しいことに挑戦してきたからだ。」というお言葉は強く印象に残りました。常に工夫を重ね、様々な経験や知識を応用し、頂点をつかんだ田口さんの言葉だからこそ、とても重みがありました。水泳はもちろんですが、現役の生徒たちが進路実現に向けて努力する上でも金言だと思います。
- 指示されたことをやっているだけでは、泳力や学力の伸長は望めません。常に自分なりの工夫や努力を積み重ねることが必要なのだと、高校生活だけでなく、卒業後も含めての指針となるような講演会でした。

### (3) 校長先生(八尾高校公式HPより)

- 開口一番先生が仰ったのは「スポーツはカンニングをしても怒られない」という言葉・・・ドキッとしました。世界一になりたかったら世界一の泳ぎを徹底的に分析し真似ること、それが唯一の道だというお話しです。「自分が今置かれている位置すらわからない人はどこへも行けない」という一言が胸に突き刺さりました。漠然と夢を語り希望を口にすることはあってもそれが本気かどうかということは行動を見ればわかるということだと思いました。

○ 私が感銘を受けたもう一つのお話は、理想を描くチカラのお話です。田口先生が私たちに投げかけた問いは「自由形で一步の手が水をキャッチした時にもう一方の手はどこにあるか？」というものでした。水泳選手やコーチでさえ自分のイメージで「だいたいこのあたり・・・」と答えるのが精一杯だそうですが、これでは理想に近づけないと教えていただきました。じゃあどう答えれば良いのか・・・？目から鱗でした。世界一速い選手の場合、科学的に導き出した場合、そしてそれを自分に当てはめた場合・・・この3つを答えないとダメだということです。細部にわたって自分が描く理想をハッキリと意識できていないと成長しないということだと理解しました。言われてみるとそのとおりなのですが、水泳に限らず、なりたい自分に近づくためのアプローチをちゃんと理解していないことは結構あるんじゃないでしょうか？妥協せず理想を描くチカラは夢を引き寄せる第一歩になると思いました。

○ 最後にご紹介するのは運の話です。先生は「スポーツは大運動会」、運が動くのがスポーツだと仰いました。スポーツをする人は運を作らないとダメ、そのためには神様の立場に立って考えることが必要！ということだそうです。先生は運を引き寄せるために一日一善では足りないと考え、一日十善のつもりでゴミ拾いをしたというエピソードを教えてくださいました。実は以前、他の種目の金メダリストの方が同じようなことを仰っていたのを聞いたことがあります。強烈なプレッシャーの中で運を味方につけることまで考えるのがトップアスリートなんだとあらためて感心しました。



田口氏と校長先生（HPより）

## 6 評価と今後の取組への提案

- 今回の講演会は大成功であったと評価したい。要因は以下の3点である。
- ① 現役部員は、開会当初は固かったが、田口氏の話に引き込まれるように笑顔になり目を輝かせていた。感想には、「自分たちもポジティブな心構えを生かして頑張りたい」「速い人の技術を盗み取って自分の水泳に活かしたい」とあり、競技活動を向上させる刺激を受け取った様子がよく出ていた。
  - ② 現役部員はじめ関係者を含めて120名と講演会としてはかなり大勢の参加があった。一般参加者からも「金メダリストのお話を初めて聞いて良かった」「こんな催しは他ではあまりない」など高評価を得た。金メダリストのお話を直接聞ける機会は少ないので、競技の経験がある体育部OB OGのみならず一般の方々にも同様の講演会に対するニーズはある。
  - ③ 八尾高校での初めての金メダリスト講演であったが、田口氏への打診や準備、当日の進行等を含めて極めて円滑に運営でき、現役への刺激、競技への気持ちを高めるという目的を達成することができた。
- 金メダリストの経験を踏まえたお話は、競技種目にこだわりなく、競技力向上のみならず幅広く人生のためになる。普段のOB OGの経験を踏まえた助言に加えて、このような講演会により現役部員に競技の楽しさや向上心の醸成に資することができると思われる。体育部OB OG会において取り組むことができれば、幅広く体育部の現役への支援になり、また、スポーツへの関心を高めることができると考える。